

事項	ナモグリバエ適用薬剤の防除効果の特徴																																																																										
ねらい	近年、ナモグリバエによる野菜・花きの被害が多発傾向にあり、防除薬剤の効力不足が指摘されている。このため、有効薬剤の検索及び登録促進を図ってきたところ、各薬剤の防除効果の特徴について知見が得られたので参考に供する。																																																																										
指導参考内容	<p>1 ナモグリバエ適用薬剤の防除効果の特徴</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>殺虫効果</th> <th>被害抑制効果</th> <th>効果の持続性</th> <th>主な適用作物</th> <th>適用害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[トルフェンピラド剤] ハチハチ乳剤</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>ある</td> <td>かぶ、レタス</td> <td>ナモグリバエ</td> </tr> <tr> <td>[クロルフェナピル剤] コテツフロアブル</td> <td>◎</td> <td>△</td> <td>ある</td> <td>レタス</td> <td>ナモグリバエ</td> </tr> <tr> <td>[マクロライド剤] アフーム乳剤</td> <td>○～◎</td> <td>△～○</td> <td>劣る</td> <td>レタス</td> <td>ナモグリバエ</td> </tr> <tr> <td>スピノエース顆粒水和剤</td> <td>○</td> <td>×～○</td> <td>劣る</td> <td>かぶ</td> <td>ハモグリバエ類</td> </tr> <tr> <td>コロマイト乳剤</td> <td>◎</td> <td>△</td> <td>不明</td> <td>きく</td> <td>ハモグリバエ類</td> </tr> <tr> <td>[IGR剤] トリガード液剤</td> <td>◎</td> <td>×</td> <td>不明</td> <td>しゅんぎく</td> <td>ハモグリバエ類</td> </tr> <tr> <td>[ネライストキシシン剤] パダンSG水溶剤</td> <td>△～○</td> <td>×</td> <td>劣る</td> <td>レタス</td> <td>ナモグリバエ</td> </tr> <tr> <td>[有機リン剤] マラソン乳剤</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>劣る</td> <td>かぶ</td> <td>ナモグリバエ</td> </tr> <tr> <td>エルサン乳剤</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>劣る</td> <td>さやえんどう</td> <td>エンドウハモグリバエ (注) 2</td> </tr> <tr> <td>[合成ピレスロイド剤] アディオン乳剤</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>劣る</td> <td>さやえんどう</td> <td>ナモグリバエ</td> </tr> <tr> <td>[ネオニコチノイド剤] アクタラ顆粒水溶剤</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>劣る</td> <td>花き類・観葉植物</td> <td>ハモグリバエ類</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 ◎：効果は非常に高い ○：効果は高い △：効果はやや低い ×：効果は低い 2 ナモグリバエの別名</p> <p>2 薬剤選択の目安</p> <p>(1) ナモグリバエの発生が多い時期に散布体系の基幹剤として使用する薬剤 ハチハチ乳剤、コテツフロアブル、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤</p> <p>(2) 基幹剤より効果が劣るため、基幹剤との体系散布で使用する薬剤 コロマイト乳剤、トリガード液剤、パダンSG水溶剤</p>			薬剤名	殺虫効果	被害抑制効果	効果の持続性	主な適用作物	適用害虫	[トルフェンピラド剤] ハチハチ乳剤	◎	◎	ある	かぶ、レタス	ナモグリバエ	[クロルフェナピル剤] コテツフロアブル	◎	△	ある	レタス	ナモグリバエ	[マクロライド剤] アフーム乳剤	○～◎	△～○	劣る	レタス	ナモグリバエ	スピノエース顆粒水和剤	○	×～○	劣る	かぶ	ハモグリバエ類	コロマイト乳剤	◎	△	不明	きく	ハモグリバエ類	[IGR剤] トリガード液剤	◎	×	不明	しゅんぎく	ハモグリバエ類	[ネライストキシシン剤] パダンSG水溶剤	△～○	×	劣る	レタス	ナモグリバエ	[有機リン剤] マラソン乳剤	×	×	劣る	かぶ	ナモグリバエ	エルサン乳剤	×	×	劣る	さやえんどう	エンドウハモグリバエ (注) 2	[合成ピレスロイド剤] アディオン乳剤	×	×	劣る	さやえんどう	ナモグリバエ	[ネオニコチノイド剤] アクタラ顆粒水溶剤	×	×	劣る	花き類・観葉植物	ハモグリバエ類
薬剤名	殺虫効果	被害抑制効果	効果の持続性	主な適用作物	適用害虫																																																																						
[トルフェンピラド剤] ハチハチ乳剤	◎	◎	ある	かぶ、レタス	ナモグリバエ																																																																						
[クロルフェナピル剤] コテツフロアブル	◎	△	ある	レタス	ナモグリバエ																																																																						
[マクロライド剤] アフーム乳剤	○～◎	△～○	劣る	レタス	ナモグリバエ																																																																						
スピノエース顆粒水和剤	○	×～○	劣る	かぶ	ハモグリバエ類																																																																						
コロマイト乳剤	◎	△	不明	きく	ハモグリバエ類																																																																						
[IGR剤] トリガード液剤	◎	×	不明	しゅんぎく	ハモグリバエ類																																																																						
[ネライストキシシン剤] パダンSG水溶剤	△～○	×	劣る	レタス	ナモグリバエ																																																																						
[有機リン剤] マラソン乳剤	×	×	劣る	かぶ	ナモグリバエ																																																																						
エルサン乳剤	×	×	劣る	さやえんどう	エンドウハモグリバエ (注) 2																																																																						
[合成ピレスロイド剤] アディオン乳剤	×	×	劣る	さやえんどう	ナモグリバエ																																																																						
[ネオニコチノイド剤] アクタラ顆粒水溶剤	×	×	劣る	花き類・観葉植物	ハモグリバエ類																																																																						
期待される効果	ナモグリバエ防除薬剤を選択する際の参考となり、野菜・花き類の高品質生産に寄与する。																																																																										
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成21年3月2日現在の農業登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農業を使用する場合は、必ず最新の「農業登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)を確認すること。</p>																																																																										
担当部署(担当者名)	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 病害虫防除室 (新藤潤一、北野のぞみ、石谷正博)	対象地域	県下全域																																																																								
発表文献等	平成15、17～20年度 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場成績概要集 北日本病害虫研究会報 第59号																																																																										

【根拠となった主要な試験結果】

表1 各種殺虫剤の効果比較 (平成15年、17年 青森農林総研畑園試)

供試薬剤・希釈倍数	平成15年		平成17年			薬害
	第1回散布14日後	第2回散布17日後	第2回散布7日後	第3回散布14日後		
	食害葉数	老熟幼虫・蛹数	食入痕数	食入痕数	蛹数	
[有機リン剤]						
マラソン乳剤 1,000	25.9 (95)	257.7 (141)	32.6 (98)	377.0 (90)	115.0 (107)	なし
エルサン乳剤 1,000	— (—)	— (—)	30.0 (90)	334.0 (80)	152.3 (142)	なし
[ネオニコチノイド剤]						
アクタラ顆粒水溶剤 2,000	21.5 (79)	149.0 (82)	— (—)	— (—)	— (—)	なし
[その他]						
ハチハチ乳剤 2,000	— (—)	— (—)	1.5 (5)	45.0 (11)	0.3 (0)	なし
スピノエース顆粒水和剤 5,000	25.9 (95)	24.3 (13)	5.1 (16)	218.0 (52)	15.7 (15)	なし
無処理	27.3 (100)	182.3 (100)	33.2 (100)	418.0 (100)	107.7 (100)	

(注) 1 供試作物(品種):かぶ(玉里)、は種:5月26日(H15)、5月6日(H17)
 2 散布月日(H15):6月17日(100%/10a)、7月1日(150%/10a)の2回
 3 散布月日(H17):5月26日(100%/10a)、6月2日(150%/10a)、6月9日(200%/10a)の3回

表2 各種殺虫剤の効果比較 (平成18年、20年 青森農林総研畑園試)

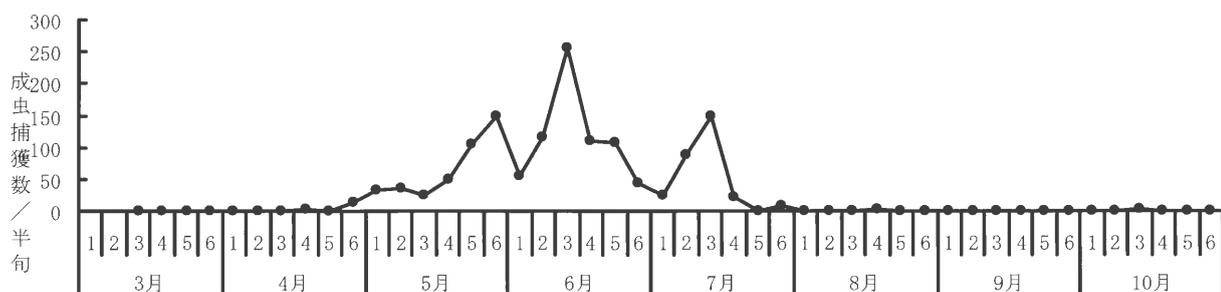
供試薬剤・希釈倍数	平成18年				平成20年				薬害
	第2回散布7日後		第2回散布14日後		散布8日後		散布14日後		
	食入痕数	蛹数	食入痕数	蛹数	食入痕数	蛹数	被害度	蛹数	
[有機リン剤]									
マラソン乳剤 1,000	190.7 (92)	10.3 (89)	244.3 (73)	271.7 (172)	— (—)	—	— (—)	— (—)	なし
[IGR剤]									
トリガード液剤 1,000	186.3 (89)	0 (0)	399.3 (119)	6.3 (4)	— (—)	—	— (—)	— (—)	なし
[ネライストキシシン剤]									
バダンSG水溶剤 1,500	146.7 (70)	0 (0)	340.7 (101)	52.0 (33)	38.3 (71)	0	34.2 (76)	12.0 (26)	なし
[その他]									
ハチハチ乳剤 2,000	4.0 (2)	0 (0)	11.0 (3)	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)	0 (0)	なし
アフーム乳剤 2,000	24.7 (12)	0 (0)	132.0 (39)	0.7 (0)	21.0 (39)	0	26.5 (59)	5.0 (11)	なし
コロマイト乳剤 1,500	97.3 (47)	0.7 (6)	259.3 (77)	2.7 (2)	— (—)	—	— (—)	— (—)	なし
無処理	208.3 (100)	11.7 (100)	336.3 (100)	158.0 (100)	53.7 (100)	0	45.0 (100)	45.7 (100)	

(注) 1 供試作物(品種):かぶ(玉里)(H18)、レタス(コロラド)(H20)、は種:5月2日(H18)、定植:5月8日(H20)
 2 散布月日(H18):5月22日(100%/10a)、5月31日(150%/10a)の2回
 3 散布月日(H20):5月13日(150%/10a)の1回

表3 各種殺虫剤の効果比較 (平成19年、20年 青森農林総研畑園試)

供試薬剤・希釈倍数	平成19年				平成20年				薬害
	第2回散布7日後		第2回散布14日後		散布8日後		散布14日後		
	被害度	蛹数	被害度	蛹数	食入痕数	蛹数	被害度	蛹数	
[合成ピレスロイド剤]									
アディオン乳剤 3,000	49.2 (102)	55.0 (65)	45.6 (121)	170.7 (174)	— (—)	—	— (—)	— (—)	なし
[その他]									
アフーム乳剤 2,000	28.0 (58)	0 (0)	35.1 (93)	14.7 (15)	— (—)	—	— (—)	— (—)	なし
コテツフロアブル 2,000	30.2 (63)	0 (0)	23.4 (62)	0.7 (1)	28.3 (53)	0	20.6 (46)	1.0 (2)	なし
無処理	48.1 (100)	84.3 (100)	37.9 (100)	98.0 (100)	53.7 (100)	0	45.0 (100)	45.7 (100)	

(注) 1 供試作物(品種):かぶ(玉里)(H19)、レタス(コロラド)(H20)、は種:4月26日(H19)、定植:5月8日(H20)
 2 散布月日(H19):5月16日(100%/10a)、5月23日(150%/10a)の2回
 3 散布月日(H20):5月13日(150%/10a)の1回



(参考) 黄色水盤によるナモグリバエ成虫の捕獲数の推移 (平成20年 青森農林総研畑園試)